

みつくら

令和 3年 2月15日 第332号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

たろし滝の橋架設後に多くの見学者

花巻市が設置しているたろし滝の仮橋は今年は1月21日に設置され、厳寒が続いている今冬も、多くの方々がたろし滝を訪れている。菅原黎治さんの話によると、葛丸川の流水が少なかった事もあり、仮設橋設置前にも川を渡っていく見学者が見受けられたが、橋の設置後は更に多くなったという。1月24日は日曜日のせいもあってか、午後2時から40分程の間ですれ違った方を含めると11人が訪れていた。

たろし橋（通称）について、測定40回記念誌によると、最初のたろし滝測定は昭和50年2月14日で、板垣寛さん、板垣好一さん、菅原輝男さん、板垣栄さんの4人で太さを初測定した際、川に橋がなくて不便だったことから相談して、測定会の後2月20日に茂左衛門家の林から丸太を貰い、番線で括り付けて丸太橋を作っている。その丸太橋は、2年後の昭和52年2月23日に雪溶け水で流失、更に3年後の昭和55年2月26日にも、同じく雪溶け水で丸太橋の一部が流失する憂き目に遭っている。

これに懲りた菅原輝男さん達有志は、翌昭和56年11月に石鳥谷町に対し仮設橋設置の要望を行っている。町では、昭和63年10月にたろし滝駐車場と、川への降り口の階段を整備し、平成2年1月25日にその年の仮設橋（業者長田工務店）が架けられた。しかし、僅か半月後の2月7日には、雪溶け水でその仮設橋が流され、その時からロープで大木に繋いでいたが、業者が長澤工務店に替わった平成17年1月21日に橋を架けた際にはロープで繋がらなかったため、1ヶ月後の2月20日に再び雪溶け水で流された。それからロープで繋がれるようになり、橋は流されなくなった。板垣寛さんに「丸太橋を架ける時には許可をもらったの？」とお聞きしたなら、「素人の手作りだったのと、手続きを知らなかった」と話された。今年も、橋のたもとは、花巻市が設置した河川敷使用許可書が掲げられている。

人 事（敬称略）

花巻青年会議所広報局委員 板垣和郎

基盤整備事業の今は

大瀬川地区基盤整備事業は、平成30年7月に耕作者100%の調査同意署名の協力のもとに、翌年の令和元年度から現況調査が行われ、元年度は事業対象区域や課題個所の確認をしている。

令和2年度では、土壌・地耐力・標高測量・希少野生動植物調査が行われた。その中で、土壌調査は暗渠排水整備計画のため、対象地区内の深い場所（ぬかるところ）11か所を選定し、1m四方、深さ1mを掘り一定時間の貯留水量を計測するもので、選定にあたっては地権者や耕作者の同意を得て実施された。次に地耐力調査では、地中に金属棒を刺して地盤確認を行い土を採取して土質を調査した。また、標高測量では区画図面を作成するうえで最も重要な調査となっており、皆さんも調査状況を見かけた方もいるかと思うが、近隣の北寺林八幡地区まで調査している。その他にも希少野生動植物調査は、専門家が地区内を調査し、特に希少植物については工事前に対象地区外に移植することを念頭に9月から始まり、稲刈後を中心に予定どおり実施された。

基盤整備対象者に対しても、令和2年8月には、第1回の整備区画図面確認が各地区で行われ、延べ112名が参加した。参加者からは区画面積や排水路位置などに関する要望が出され、県に提出されている。

今後はこの要望や現地調査を受けて、修正区画図面確認が行われる予定となっていると同時に、事業推進の必須として今後の大瀬川地域の農業のみならず、生きいきとした地域をどう構築していくかを盛り込んだ「営農ビジョン」を策定する必要がある。推進委員会では、2年前に「ビジョン検討部会（推進委員会委員と委員以外各5名で構成）」を、ワークショップ形式で開催し、現状把握、課題、ありたい姿、そのための方策などをテーマに4回にわたって協議しており、今後は営農アンケート結果も踏まえて全体ビジョンを策定する予定とのこと。

菅原教雄大瀬川地区基盤整備事業推進委員長は「以前にもお願いしているが、相続登記手続きを今年の春頃までに行ってほしい。その手続きなどについて聞きたい場合は推進委員に問い合わせしてほしい」と話していた。

大瀬川地区の降雪を除雪作業から記録する

大瀬川活性化会議では平成27年度からホンダ製の除雪機で駐車場の身障者用2台分と普通車用6台分と振興センターから改善センターまでの通路を除雪している。作業は午前6時から8時までの間で行っているが、日中でも積もる時は除雪する場合もある。駐車場の北側は県道13号線の大瀬川地区チェーン着脱所になっており、ここは県の担当部署に連絡して大型除雪車で振興センター分も除雪して頂いている。

除雪作業を行った際の日報から、平成29年度から令和2年度2月5日までの降雪記録を調べたところ、平成29年度は25日で累積283センチの積雪。令和元年度は9日で93センチ、令和2年度は2月5日までの19日間で223センチ積も

っている。このことから今年の雪の多さが分かる。

また、今年は改善センターで各種団体が毎日のように施設を使用しており、青雲高校のフットサルの部員が市道の南側から雪を漕いで来るのでゴミ集積場までの70mを、ブルリの杜の利用者がブランコに乗りに来るので、銀杏の木からブランコまでを除雪している。

作業しながら、ふと、スケートや雪上運動会を行なっていた頃の歓声が聞こえたような気がした。

グランドゴルフ大瀬川支部が練習会

花巻市石鳥谷グランドゴルフ協会（大瀬川からは菅原敬夫理事）の会員は現在154名いるが、その内大瀬川支部は15名で、12有る支部の中で江曾支部（20名）、好地支部（17名）、八重畑支部（16名）、八日市支部（16名）に次いで5番目に多い。その大瀬川支部では、令和2年12月から定例の練習会を始めた。

練習会は、毎週水曜日に大瀬川構造改善センターと定め、令和3年1月は3回実施し、2月は4回予定している。毎回8～9人が参加していて、コロナ禍で感染対策を充分にとって楽しい交流の場となっている。2月3日の練習会の後、菅原敬夫さんは「年を取ると、何と言っても身体を動かすのが大切なので、練習会では技量を高めるよりも、楽しみながら運動出来るようにと心がけています」と話している。

現在大瀬川の会員は（50音順）板垣福子さん、熊谷善志さん、熊谷實さん、熊谷良悦さん、熊谷レイ子さん、熊谷正男さん、菅原敦子さん、菅原和子（留屋敷家）さん、菅原重靱さん、菅原新一郎さん、菅原敬夫さん、菅原佳子さん、高橋厚子さん、畠山靖さん、ほかに菅原義秀さん（シルバー普及指導員3級）、菅原黎治さんも協会員ではないが練習会に参加している。

防犯協会が「地域の安全・安心」看板設置

花巻市防犯協会大瀬川支部（熊谷幸夫支部長）では、昨年12月の年末年始地域活動に合わせ、地域の安全・安心をアピールした看板2基を設置した。

この看板設置については、図案や設置場所などを検討した結果、7区自治公民館そばのゴミステーションと9区自治公民館そばの自主防災会倉庫にマグネット式で「見守ろう 地域の安全 みんなの安心 ♪ふる里大瀬川」と入れている。

なお、8区自治公民館に対しては振興センターと併設のため、多くの看板があり再度検討している。

防犯活動により、看板や幟旗・広報車活動・ユニホーム着用での声かけ運動が定着している地区では、不審者も行動を敬遠してか、住民が被害に遭う件数が減少傾向になっている。

表 彰（敬称略）

花巻市スポーツ大会 卓球カブの部3位 辻村大雅

みつくら

令和 3年 2月15日 第332号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

「お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!」

久し振りに織物で楽しむ

大瀬川機織クラブ（高橋厚子代表）は、コロナ禍で例会を休んでいたが、12月17日に久しぶりに6人が参加して大瀬川構造改善センターで機織を楽しんだ。当日参加したのは板垣福子さん、熊谷レイ子さん、菅原房子さん、熊谷りり子さん、高橋厚子さん、板垣幸子さんの6人で、前回まで制作途中の作品を織った。大瀬川には、卓上織機を持っている方が8人いて、当会は5年前に発足している。

「機織の楽しいところは何か?」とお聞きしたなら「糸は、木綿のような細い物から毛糸などの太いものまで使えて、仕上がった模様の色は材料の色と違って、何とも言えぬ風合いを醸し出すところです」と板垣福子さんは話してくれた。

「縦の糸はあなた〜♪ 横の糸はわたし〜♪ 織りなす布は〜♪ いくつか誰かを〜♪ 暖めうるかも知れない〜♪」

週一で体操!!

大瀬川の各区では、コロナ禍対策を行って週1回各自自治公民館に集まり「大東元気でまっせ体操」を行っている。この時期は、市役所長寿福祉課と保健センターの職員が訪れて「いきいき講座」も同時開催されたので紹介する。

○7区くずまる健康クラブ（菅原敬子世話人）では、1月14日に11人が参加してまっせ体操後に体組成の測定（体脂肪や筋肉量など）と健康相談会を行った。

○9区たんぼぼの会（熊谷幸子会長）では、1月20日に8名が参加してまっせ体操後にロコモ対策（いつまでも自分の足で元気に歩き健康寿命を延ばす）を無理なく簡単に出来る運動の指導を受けた。内容は、机・椅子の横に背筋を真っ直ぐして立ち、片方の足を5〜10cm程度上げ1分間保つ。これを左右で1日1〜3セット行う。また、椅子を使った「まっせ体操」など、簡単な運動でも体がほぐれて温まった。

○8区あじさいの会（板垣福子会長）では、2月2日に11名が参加してまっせ体操後に「血管の健康について知る

う」をテーマとした講座を受けた。その中で「一番太い血管は直径3cmもある心臓から送り出す部分で、逆に一番細い血管は直径0.005mmの毛細血管で、体の血管を繋ぐと地球2周半の距離になる」と説明があり、高血圧が原因の脳梗塞・動脈硬化・心筋梗塞を防ぐためにも毎日の正しい血圧測定がいかに大切かを学んだ。

たろし滝まで道づくり

2月7日 大瀬川たろし滝測定保存会では、測定会に向け会員有志21名の協力で道作りを行った。この日、里は雨だったが現地はみぞれで、積もっていた雪も締まっており、滝に登る道に階段を作る作業もはかどった。このときに見たたろしは測定不能だった昨年とは異なり、下まで太く垂れていた。

測定会当日の11日、たろし滝の測定結果は果たして何メートルだったのか?

たろし滝測定保存会の総会も書面議決で

令和3年度の大瀬川たろし滝測定保存会の総会は、新型コロナウイルス感染症対策のために書面議決となった。前年度の総会は、新型コロナウイルスがまだ騒がれない時期だったので開催できたが、書面議決書による総会は、今回が初めて。

「みつくら」第329号でもお知らせしたが、花巻市では現在、令和2年11月21日に発令した「レベル3設定期間」が令和3年1月31日までとなっていたが、その後令和3年1月7日付けで「当分の間」と変更になったので、公共施設の利用制限がいつまで続くか見通しが立たない状態となっている。

今年も各総会は書面議決となるか

9区では毎年3月下旬に合同の総会を行っているが、昨年引き続き書面議決とするか各役員会で検討に入った。

各団体は総会に向けてそろそろ準備作業に入ろうとする時期だが、どこもコロナ禍での対応に苦慮している模様である。

工事完成検査を行う

2月6日 下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）は、令和2年度の共同活動及び施設の長寿命化活動に係る工事完成検査を行った。工事内容はU字溝の補修及び設置で、箇所は市道吉沢茶畑線熊谷記彦宅北側が約131mで267万円、市道朴田線藤原利博宅東側27mは64万円で、これにより今年度事業を終えた。

訂正

○330号・8区農家組合研修会での石鳥谷管農センター長 佐藤健→菊池健さんです。

○大瀬川の無火災連続日が間違っておりました。

10月号240日→186日、11月号271日→216日

12月号301日→246日、1月号322日→277日

計 報

1月3日に田屋竈家の熊谷藤五郎さんが94歳で亡くなりました。熊谷さんは終戦間際の昭和20年8月8日に19歳で招集され、陸軍二等兵として弘前第16部隊に勤務していましたが、一週間後に終戦となって同年8月29日に大瀬川に帰還した方でした。

熊谷さんは帰還後に、農業や炭焼きの傍ら、甘木家の板垣友三さんが開いた板垣製材所（現在のたばこ屋さんの西側）に働いていました。昭和26年になって、それまでの納豆を包む藁苞（わらつと）が「つけげ（経木）」に替わった頃に、板垣製材所では「つけげ」を作っていました。「つけげ」は、特殊な鉋（かんな）で作った物でしたが、薄いと割れ目から納豆が漏れ、厚いと「つけげ」が折れるなど技術を要したものでした。熊谷さんは「友三さんから、職工の中で一番上手いと褒められた」と話されていたのを思い出します。

昭和35年に第8区長をなされた後は、石鳥谷町農業共済組合の損害評価員や事業推進員、総代など昭和43年から20年間も尽くされました。当時石鳥谷町農業共済副組合長でした熊谷儀男さんからも厚く信頼を得られた方でした。

熊谷年雄（加口家）さんは生前に「藤五郎さんは、西瓜作りの名人で私も教えていただきました」と話されていました。皆さんに親しまれました熊谷藤五郎さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務室

田屋竈家の熊谷藤五郎さんの遺品を整理していた熊谷恭一さんが、暦の裏を利用した平成8年から令和元年まで郷土の温度を調べた資料を見つけた。

資料を見せて戴いた時、その膨大な調査の記録にびっくりしてしまった。特に興味したのは、毎月の平均温度と積算温度を表と折れ線グラフにした上に前年度分も一緒に色分けして書かれ、ひと目でとても比較がしやすいのである。

また、温度のほかになぜ積算温度を調べていたのかが気になって熊谷善志さんに尋ねた所、「植物が育って実を付けるためには積算温度が重要。例えば、稲穂が出てから40日までに平均880度の積算温度がないと登熟しない」との事。

この話から、藤五郎さんが作る西瓜はどれも美味しかった、西瓜作りの名人だったと言われているのは、この積算温度を利用していたからかもしれないと思ってしまった。

23年間も付けていたこの記録も令和元年5月分で終了していたことから、その頃に体調がすぐれなくなったと思われる。ほかにも、昭和50年〜令和元年までのたろし滝測定結果を棒グラフに書き起こした見やすい表もあって、藤五郎さんの几帳面さが伺われ、残したい資料になりそうだ。

またほかに、亡くなった板垣知（温平家）さんも、大瀬川の最低・最高気温を毎日測って測定結果を記録していたのを思い出す。